

第2期人口ビジョンの数値目標

自然動態

指標	出典・根拠資料	2020年	2025年	2030年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	備考
合計特殊出生率	社人研推計による	1.70	1.80	1.91	-	-	-			2040年に2.10まで回復させる

社会動態

「社会動態減少幅の抑制」は、人口ビジョンの取組目標である以下の各指標の合計値について検証します。検証の際は、2020～2024年の5ヵ年・2025～2029年の5ヵ年の年平均値を算出し、現状値と比較してください。

指標	出典・根拠資料	2020年	2025年	2030年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	備考
社会動態減少幅の抑制	人口ビジョンの取組目標である①UIターン者数の増加、②高校卒業時の就職による町外転出者数の抑制、③就職による転出者数の抑制、④女性の結婚による転出者数の抑制に関する5ヵ年平均との比較（前期：2020～2024年・後期：2025～2029年）	0	60	60	35	18	0			5ヵ年平均

指標	詳細	現状	増加・抑制数		目標値 R3-R7	2020年		2021年		2022年		2023年		2024年		備考
						実数	増加・抑制値	実数	増加・抑制値	実数	増加・抑制値	実数	増加・抑制値	実数	増加・抑制値	
UIターン者数の増加	UIターンによる転入（≒社会増）のうち、二人以上世帯の転入者数	69人/年	増加	29人	98人/平均	88	65.52%	63	-20.69%	62	-24.14%					現状値はH29～R1の3か年平均
高校卒業時の就職による町外転出者数の抑制	横田高校卒業時に、就職により管外（県内）及び県外への転出者数	8人/年	抑制	4人	4人/平均	6	50.00%	3	125.00%	3	125.00%					現状値はH27～R1の5か年平均
就職による転出者数の抑制	就職を理由とした転出者数	102人/年	抑制	22人	80人/平均	93	40.91%	90	54.55%	110	-36.36%					現状値はH27～R1の5か年平均
女性の結婚による転出者数の抑制	結婚を理由に町外へ転出する20代・30代の女性の数	24人/年	抑制	5人	19人/平均	19	100.00%	17	140.00%	14	200.00%					現状値はH27～R1の5か年平均
社会動態減少幅の抑制 目標値				60人	-	-		-		-		-		-		

令和4年度（2022年度）の第2期人口ビジョンの動向と分析

- ・ コロナ禍による行動制限、厳しい人流抑制もあり、人の動きが鈍化し、二人以上世帯の転入者数は一昨年度に続き低下している。
- ・ 横田高校生の就職による管外及び県外への転出と女性の結婚による転出は、抑制することができた。
- ・ 全国的に求人が増えていること、職種、就業条件などから若年者の就職による転出が増えていることが考えられる。
- ・ 結果として、令和3年度（2021年度）に比べ、第2期人口ビジョンの社会動態減少幅は抑制できなかった。
- ・ 第2期人口ビジョンの数値目標をクリアするためには、
 - ①二人以上世帯のUIターン者数を増加させる移住定住施策や子育て支援の取り組みを実施する。
 - ②就職による転出を抑制するため、求人情報の提供や雇用の場の確保、仕事づくりを実施する。若年層に向けた情報発信等に力を入れる。
 - ③引き続き結婚による女性人口の減少を抑制していくため、女性が働きやすい雇用の場の確保や出会いの場の創出等に取り組む。